西東京市市民協働推進センター
平成 25 年度第 10 回運営委員会会議録

■開催日時：平成 25 年 1 月 21 日(火)午後 7 時～9 時
■開催場所：イングビル 3 階第 1,2 会議室
■出席委員：有馬委員、岸委員、久保委員、小嶋委員、坂口委員、田中(紀)委員、田辺委員、富沢委員、豊永委員、中村委員、藤江委員＜以上 11 名、五十音順＞
■事務局：内田センター長、佐藤、丸木地域福祉課長、塚澤主事

第 10 回運営委員会開始前に西東京市役所生活文化スポーツ部協働コミュニティ課による「西東京市地域コミュニティ基本方針」についての説明があった。

１．報　告　事　項

１．業務報告について

事務局より、12 月期の事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談対応状況について説明があった。

委員長：ゆめこらぼのホームページは登録団体が自主的に入力しているのか。

事務局：基本的には登録団体が入力できることになっているが、団体の持込やメール添付によるチラシの代行入力がほとんどなのが現状である。また、団体のホームページからの転載やチラシからの情報更新にも取り組んでいる。

委員長：西東京市のフェイスブックページが立ち上がったが、ゆめこらぼもタイミング的に来年度に向け新たにフェイスブックページを立ち上げる構想はあるのか。

事務局：検討していきたい。来年度に向けて精査するつもりである。

２．平成 26 年 1 月以降の事業について

事務局より 1 月以降の実施事業について説明があった。

委員長：地域連携促進事業の一環として１月９日に柳沢公民館で開催された「協働のまちづくり」講座への協力企画に参加された方の感想やご意見を伺いたい。

委　員：受講者 15 名と 11 団体の参加によるワールドカフェ形式の交流会は大変好評だった。多くの団体の存在や多くの問題の存在に気付いたことは、有意義であったと思う。
ゆめこらぼの知名度がとても低く残念に思ったが、今回のような企画を通して効果的に知名度を上げることは可能ではないか。

委員長：２月５日に開催される「行政職員と市民活動団体との懇談会」に行政側からいくつの課が出席するのか。

事務局：テーマである「みんなでつくるまちづくり」に関連のある市民活動団体を募集しているところである。また、行政も担当課が各課に参加を呼びかけている。

２．審　議　事　項

１．前回の会議録について

委員長：特にご意見がないようなので、確定稿とする。

３．協　議　事　項

１．協働を考えるシンポジウムについて

事務局より、企画説明があった。

委員長：「協働を考えるシンポジウム」は何回目か。

事務局：５回目である。

委員長：タイトルに第５回を加筆して「第５回　協働を考えるシンポジウム」としても良かったと思う。「参加と協働のまちづくり」というテーマは、絞り込まれてなく漠然としたタイトルである為、基調講演はともかく、４人のパネリストの活動紹介だけで時間が終わってしまう可能性を危惧する。事前に事務局が基調講演の資料から「西東京市のまちづくりについて三鷹市から学ぶべきこと」など、特に議論してほしい事柄を具体的に抽出し各パネリストに促してはどうか。

事務局：各パネリストには発言要旨の提出をお願いしている。今月末には、この発言要旨などを参考に基調講演を行う講師と全体の流れなども含めて打ち合わせをする予定である。ご指摘の事項を念頭にしたいと考えている。

委　員：パネリスト選出に統一感がなく、対象も分からないように感じる。委員長の意見同様に、議論の核になる内容が必要と思われる。

委員長：講師に発言要旨など情報提供すると同時に、各パネリストにも事前に講師の発表する内容を提供し、全国的にも先進事例である三鷹市のどの部分について議論するのかを考えていただき、パネルディスカッションに臨んでもらいたいと考える。

委　員：テーマの「参加」とは、行政側で言う「参加」の意味なのか。あるいは、巻き込んでいくという意味での「参加」で、テーマ設定をしているのか。

事務局：基本的に後者の巻き込んでいく意味での「参加」である。実際に三鷹市で市民を巻き込んできた事例について話をしていただきたいと考えている。

委　員：そうであれば、行政側で意味する「参加」ではないことを強調した告知が重要ではないか。

委員長：今回も職員研修の一環として、行政職員の参加もあるのか。

事務局：予定している。しかも他市の職員にも声をかけていると聞いている。

委員長：「行政職員と市民活動団体との懇談会」の参加者にもこのシンポジウムへの参加を促すと良いと思う。懇談会後に、シンポジウムを開催するというように、流れとして考えたい。是非、積極的に参加してもらえるように提案して欲しい。

委　員：以前に「協働を考えるシンポジウム」に参加した経験があるが、一般市民の参加はほとんどなかった。今後も一般市民を対象とするのであれば、次回以降からは日程や開催場所の設定を考慮していただきたい。今回のシンポジウム開催後、どのような参加者があったのか、情報を知らせて欲しい。

２．来年度の運営委員会委員について

事務局より、退任、継続となる委員、新規選出に関する説明、提案があった。

委員長：協議事項としては、運営委員の新規選出に関して、選出を行うかどうかである。

来年度は任期２期目の委員はそのまま継続で再任の委員はいない。来年度には社協としての第２期目の受託は終わると認識している。その後に関しては社協と運営委員会の意向のすり合わせを来年度早々にしなければならない。ただし、運営委員を決めるにあたり、あと１年ということで新規選出を行わないということはない。この件に関して、議論をしていただきたい。

委　員：過去の運営委員の人数は 13、14 人で推移してきたのか。
事務局：11 名からスタートして 22 年度 23 年度と 2 年続けて 2 名づつ増員していった。
委員長：いきなり増やすと 4 年後にいきなりいなくなってしまう為、少しづつ増やした経緯がある。
委　員：退任する委員の分野がなくなってしまうことになる為、新規選出には賛成である。
委員長：今までの分野では、子ども、高齢者、女性関連の分野の委員が比較的に少ないように感じる。
委　員：来年度の事業で新しいテーマや強化したいテーマに合せて選出するのはどうか。
委員長：確認であるが、新規選出を行わないという案に賛成意見がないので、人数はともかく新しい人に入っていただく新規選出という方向で議論することとする。
委　員：個人的な理由で任期途中ではあるが、分野に合う人が見つかれば、出来るだけ良いタイミングで委員を辞退したいと思う。
委員長：この件はご意向として承り、この委員の件も加え考慮して選出を考えることとする。定員 15 名までということだが 2 名に限る必要はない。本日中に確定できないようであれば、候補者を推薦して検討してほしい。NPO・NGO、ボランティア関係者は登録団体でなければいけないのか。
事務局：今年度が始まる時に、運営委員は登録団体から選出するという提案があったが、特に取り決めはない。
委　員：情報発信に強く、西東京市に特化して活動している人が運営委員に加わるのも良いと考える。
委　員：欠員領域で公募による市民も選出する必要はあるのか。
事務局：現在、１名の公募による委員がいるが、ご意向があれば追加公募も考えたい。
委　員：コミュニティ地縁関係者も考えてはどうか。
委　員：自治会なども考えられる。
委員長：今までにあがった候補者に対し、周辺情報を加え、了解を得られる可能性などによる優先順位をつけてもらい、次回の運営委員会でもう一度検討することとする。

４．　そ　の　他

1・次回運営委員会日程について

■　日時：平成 26 年 2 月 18 日(火)午後 7 時～午後 9 時
■　会場：イングビル 3 階　第 3 会議室